

神社の杜(六十二)

『御師のアイテム(ごう箱)』

片柳 茂生

毎年十一月頃から翌年の三月にかけては、御師が講中にお札を届ける時期です。近くは東京埼玉の市町村、遠くは茨城県や静岡県の講中にまで出向く御師もいます。これを「講廻り」とか「講社廻り」と呼び、講中の家を一軒一軒伺ってお札を配る、また講元や世話人のお宅にまとめて届けるというやり方もありますし、講中のお日待に合わせて伺い、祈禱も行うなど様々な廻り方がありません。

この講廻りの際の格好は、着物に羽織袴姿、足元は雪駄あるいは下駄、



イラスト：御岳ビジターセンター解説員

そして風呂敷に包まれた「ごう箱」を抱えて廻ります。今でも昔ながらの着物姿で回るので、講中の人は一目で「今年も御岳山がやってきた」と判るようです。この講廻りについては御師によって、また講中によっても違うため、この時期集りがあると決まって話題になり、ついついお酒も進んでしまいます。

今回ここで取り上げたいのは、御師が持ち歩く「ごう箱」についてです。この「ごう箱」、いつ作ったかもわからない昔からその家に有る物を大事に使っている御師もいれば、使うに堪えられない状態になってしまったか、あるいは時代のせいや靴に変わってしまった御師も少なくありません。

「ごう箱」のサイズは各家によって多少の違いはあるでしょうが、およそ長さ約一尺二寸、幅約八寸、高さ約三寸と言った所でしょうか。表は黒、内側は赤の漆で塗られています。講廻りの際この箱には数種類の札が入りますが、どの御師も必ず入れるのは通称お犬

様と呼ばれている狼の札です。一軒ごとに箱から札を取り出し、その札を蓋に移して差し出します。すると講の人は、その蓋に初穂を入れて返してくれるのです。

不思議なのはこの箱を「札箱」とか「お犬箱」とか言わずに「ごう箱」と呼んでいる事です。この呼称の由来は「牛王宝印」を入れて持ち歩いたことからついたものだと思います。「牛王宝印」とは各地の社寺で出す災厄除けの護符で、熊野神社の八咫鳥のしるしが書かれています。これは特に有名です。その「牛王宝印」なるものが御岳山では「お犬様」だったのではないのでしょうか。「牛王宝印」を入れる箱が「牛王箱」に詰り、そして「ごう箱」と呼ぶようになったのでないかと思われます。でも「お犬箱」より「ごう箱」のほうがしっくりしますよね。

この御師のアイテム「ごう箱」、使い勝手はよいのですが、困ったことに腕に抱えて持ち歩くため羽織の袖が擦り切れてしまうのが難点なんですよね。

あとがき

「清く正しく正しく」とは、大神が好む人間の心のあり方として、神道に語り継がれる言葉です。聖域に立ち入る時、祭典にのぞむ時に手水にて手と口をそそぎ、心身を清めるのは、このあらわれです。しばらくの間、コロナは人々のつながりに果敢い、社会生活を蝕んでいました。いま感染は沈静化の兆しを見せ、社会では再び人と人とが結びつこうとしています。一方で地域活動を復元しようとする際に、戸惑い、迷いの声も聞かれます。少子高齢が現実となった社会で、人々はどうのように生きるかを模索している状態です。

このような時には人と人とが誠実に向き合い、正直に話し合うことが大切であると思われまふ。「清明正直」という精神は、いまに生きる私達の指針となるのではないのでしょうか。新たに形成される社会が、明るいものであるように願うばかりです。最後に、この半年間を無事に過ごせたことを御嶽大神に感謝し、毎年丁寧に教授下さる先生方、ご奉納頂きました皆様、各種祭典や行事に御協力・御協賛下さいました崇敬者の皆様、各所関係機関の皆様、厚く御礼申し上げます。

令和六年 三月十五日発行

〔年一回発行・非売品〕

編集 武蔵御嶽神社

〒042-8781 茨城県武蔵野市御嶽
〒042-8781 茨城県武蔵野市御嶽

印刷 ㈱成和印刷
http://www.musashimikakejinja.jp/

公式ホームページ



HP



facebook

X (Twitter)

武蔵御嶽神社 公式SNS



instagram



instagram